

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	春冬雑詠：俳句：文苑
Author(s)	莽堂；瓢郎
Citation	龍南會雜誌， 1 2 4： 5 4 - 5 4
Issue date	1908-03-13
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6103">http://hdl.handle.net/2298/6103</a>
Right	

浪華從事教育十二周年

福井 魂 陽彦

知命應期百代名、誰將朝露擬人生、花紅柳綠古今色、山遠水長來去情、  
石上多年唯砧々、鉄中終日尙鏗々、育英畢竟無他事、萬語不如一默誠、

戊申二月一日

春冬雜吟

○ 葬 堂

○ 瓢 郎

郎

晝月の下の雲あり鳥の入る  
雲に入る鳥影川に流れけり  
人丈けの樹に鳥巢くふ深山哉  
我心件と誓ふ踏繪かあ  
龜の鳴く池畔の祠や燭不斷

友の寫眞に影す

鶉ともあらで田螺の依然たり焉  
長閑さや物蒔く畑の土煙り  
垣越に仰くや雪の活火山  
風さけて船やる浦や千鳥飛ぶ

隣家から猫の子もらふ冬至哉  
鴉鳴く松や五山の雪月夜  
馬を吐す見附外れの吹雪かあ  
河豚食ふと長屋の衆に忌まれけり  
三界に河豚鍋捨つる藪もあゝ  
から風に葛干す垣や寒雀  
欄干や榮華の蒲團並べ干す  
蒲願の繪馬捧げゝり神の旅  
大漁の跡に鳥群れ今朝の冬  
河豚の文河豚とは云はぬ隠語かな  
風除けの護符を配るや今朝の冬